PRIX DU JURY
FESTIVAL DE CANNES 1999
1999年カンヌ国際映画祭 審査員特別賞受賞

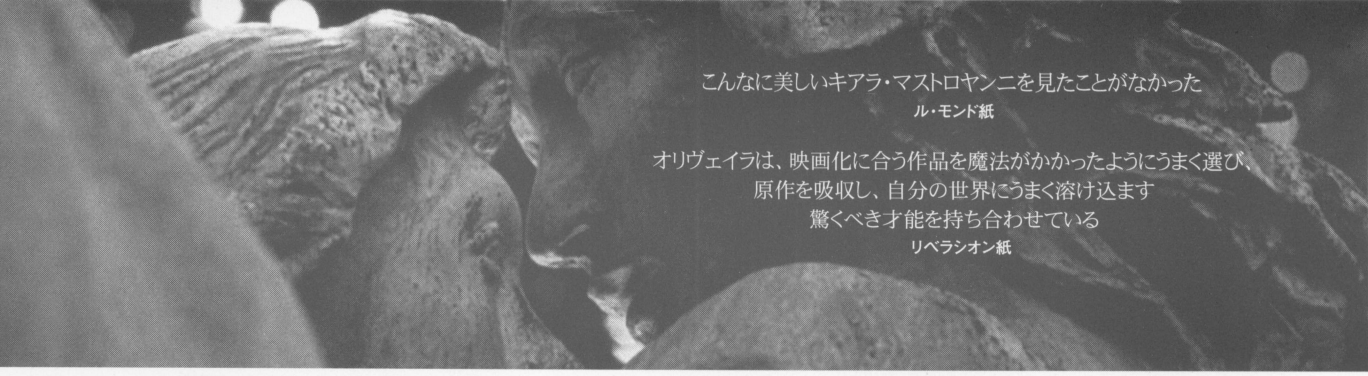
この想い、叶うことなかれ

un film de Manoel de Oliveira

クレーヴの奥方

La Lettre

監督・脚本・脚色:マノエル・ド・オリヴェイラ／原作:ラファイエット夫人「クレーヴの奥方」(岩波文庫刊)／製作:パウロ・ブランコ
文芸顧問・仏語翻訳:ジャック・パルジ／撮影:エマニュエル・マシュエル／編集:ヴァレリー・ロワズルー／録音:ジャン＝ポール・ミュジェル／美術:アナ・ヴァシュ・ダ・シルヴァ／衣装:ジュディ・シュルーズバリ
出演:キアラ・マストロヤンニ、ペドロ・アブルニョーザ、アントワーヌ・シャペー、レオノール・シルヴェイラ、フランツワーズ・ファビアン、ルイシュ・ミゲル・シントラ、スタニスラス・メラール、マリア・ジョアン・ビルシュ
挿入曲:シューベルト「3つのピアノ曲 D946第1曲変ホ短調」マリア・ジョアン・ビルシュ(ピアノ)
ペドロ・アブルニョーザ「Captain」「É difícil」「Parte de Mim」「Dá-me tudo o que tens para me dar」「Será」「No Luxemburgo」
1999年／ポルトガル＝フランス＝スペイン合作／107分
配給・宣伝:アルシネテラン　www.alcine-terran.com



こんなに美しいキアラ・マストロヤンニを見たことがなかった
ル・モンド紙

オリヴェイラは、映画化に合う作品を魔法がかかったようにうまく選び、
原作を吸収し、自分の世界にうまく溶け込ます
驚くべき才能を持ち合わせている
リベラシオン紙

『アブラハム渓谷』『メフィストの誘い』のマノエル・ド・オリヴェイラ監督最新作

92歳の現在も、その驚異的な創作エネルギーは衰えるところを知らず、1作ごとに創造性とみずみずしさを増していくマノエル・ド・オリヴェイラ。
『アブラハム渓谷』(93)のフランス公開時には、インタビュー嫌いで有名なジャン=リュック・ゴダールから対談を申し込まれるなど、
世界的に認められたポルトガルの巨匠であるが、そんな彼が新作の題材として選んだのが、
フランス恋愛小説の金字塔、ラファイエット夫人の「クレーヴの奥方」である。
原作の精神性は生かしつつ、時代を宮廷世界から現代フランスに置き換えた自由な発想に溢れる本作、オリヴェイラ版『クレーヴの奥方』は、
常連となっているカンヌ国際映画祭に正式出品され、見事審査員特別賞を受賞した。
ロックコンサートのシーンから幕を開ける物語は、18世紀のサロンや修道院へと移動し、かと思えば、パリの雑踏やテレビニュースといった現代の産物が映し出される。
古典の世界と現代を正面から向き合わせた時間を超越した画面構成は、熟練のオリヴェイラだからこそなせる技。
また、ヴァンドーム広場の宝石店やリュクサンブール公園といったパリの名所から郊外の静かな別荘の佇まいまで、
オリヴェイラ独特の美しい映像世界が映し出されている。

フランスの新たなスター、キアラ・マストロヤンニの気品溢れる美しさ

夫以外の男性を愛してしまい感情と信念の間で葛藤するカトリーヌを演じ、静かな情熱と強い意志、
そして同時に脆さをたたえた透明感ある美しさと気品で大絶賛されたのは、故マルチェッロ・マストロヤンニとカトリーヌ・ドヌーヴの娘キアラ・マストロヤンニ。
母親と共演したアンドレ・テシネの『私の好きな季節』(93)をはじめ、父親と共演したロバート・アルトマンの『プレタポルテ』(94)、
アルノー・デプレシャンの『そして僕は恋をする』(96)、ラウル・ルイスの『見出された時』(99)など、
巨匠や実力派の作品に出演してきたが、本作では堂々の主演を果たした。
カトリーヌを愛してしまう男性には、ヨーロッパ全域でカリスマ的人気を誇るロック・アーティストのペドロ・アブルニョーザが本人役で出演、
その他、カトリーヌの幼なじみの修道女に、『アブラハム渓谷』や『メフィストの誘い』(95)などオリヴェイラ作品の常連レオノール・シルヴェイラ、
シルヴァ氏に、同じくオリヴェイラ作品には欠かせないルイシュ・ミゲル・シントラ、シャルトル夫人にエリック・ロメール『モード家の一夜』(68)の
フランソワーズ・ファビアン、クレーヴ伯に『男と女と男』(99)のアントワーヌ・シャペー、
フランソワにアンヌ・フォンテーヌの『ドライ・クリーニング』(97)で印象的なデビューを果たしたスタニスラス・メラールが扮している。

ストーリー

ある演奏会の夜、カトリーヌ(キアラ・マストロヤンニ)は母親の友人から医者のクレーヴ伯(アントワーヌ・シャペー)を紹介される。フランソワ(スタニスラス・メラール)の求愛に応えられずにいたカトリーヌは、伯の強い求婚を受け入れやがて結婚する。しかし、カトリーヌは夫に尊敬以上の愛情を持てずにいた。そんな時、彼女はロック歌手のペドロ・アブルニョーザ(本人)と知り合い、2人は互いに惹かれあうのだが…。

マリア・ジョアン・ピルシュ特別出演

リスボン出身の国際的に活躍するピアニストで、モーツアルトやショパンの名手として日本でもおなじみのマリア・ジョアン・ピルシュが、「新曲」(91)に引き続き、オリヴェイラ作品に本人役で出演。シューベルトの「3つのピアノ曲 D946第1曲変ホ短調」(「夢旅人 Le Voyage Magnifique」ユニバーサル ミュージック株式会社収録)を演奏会で奏でている。

1999年カンヌ国際映画祭 審査員特別賞受賞

監督・脚本・脚色:マノエル・ド・オリヴェイラ/原作:ラファイエット夫人「クレーヴの奥方」(岩波文庫刊)/製作:パウロ・ブランコ
出演:キアラ・マストロヤンニ、ペドロ・アブルニョーザ、アントワーヌ・シャペー、レオノール・シルヴェイラ、スタニスラス・メラール、マリア・ジョアン・ピルシュ
1999年/ポルトガル=フランス=スペイン合作/107分/35mm/カラー/1:1.66ヴィスタサイズ/ドルビーSR
配給・宣伝:アルシネテラン http://www.alcine-terran.com

今春、清らかにロードショー

特別鑑賞券1500円(税込)絶賛発売中!(当日一般1,800円/学生1,600円の処)
テアトル系劇場窓口、チケットぴあ、都内各プレイガイド、ローソン店内Loppi他にてお買い求め下さい。
◆劇場窓口にてお買い求めの方に、オリジナル・ポストカードをプレゼント!◆

有楽町線銀座一丁目駅/銀座線京橋駅下車1分 03(3535)6000

銀座テアトルシネマ

10:15 12:15 2:30 4:45 7:00

初回は本篇からの上映